

▼プロローグ

ことの起こりは2018年5月に、滋賀県にある赤坂山に1泊2日の山旅をしたことだった。メンバーは3人で、ともに小学校時代からの友人である。無事に山旅を終えた後、そのひとり浪花芳法くんが、「来年の春に台湾の最高峰の玉山に行かないか。台湾に知り合いがいて、情報が入るので、自分たちでツアーを組めば安上がりにもなる」との提案をした。そのときは「いいね、いいね」と返事していただけだったが、その年の秋になって「玉山の話、具体的にメンバーを組みたいんだが…」との打診があり、こちらもだんだんその気になってきた。浪花芳法くんは神奈川県厚木市在住。「こちらでもメンバーを探すので大阪でもさがしてほしい」とのこと。5人〜6人を想定しているようだった。

2019年に入って、台湾の知人から連絡がきたと、玉山に関わる情報がこちらにも届いた。中国語で書かれた資料だったので詳細は分からないが、並んだ漢字からは部分的に理解できることもあった。

玉山に登るためには、事前に台湾当局に入山申請をして認可が下りなければ登れない。それも1日の入山数が決められているという。(後で調べると申請は120日前から、1日の入山者は92人、うち外国人枠が24人)。

その後、渡航手続きや、飛行機の予約、現地ガイドとの連絡、日程調整など、浪花芳法くんの孤軍奮闘が始まった。彼が中国語を少し学んでいたこともあって、すべて彼にお任せの状態だった。こうして、3月ぐらいから、具体的な登山計画や台湾観光についてもメールでの情報や確認事項が頻繁に入ってきた。確定したメンバーは4人、浪花くんの山仲間の高橋キクエさんと、僕の山仲間の岩本明子さんだ。年齢はみんな60代というシルバー登山隊だ。ツアーの日程は4月22日から4月28日までの6泊7日と決まった。

▼羽田空港に4人が集結

出発日の4月22日は羽田空港を早朝の5時55分発のピーチアビエーション航空MM859便だ。格安航

空券利用のためにこの時間になった。僕と岩本さんはこの飛行機に間に合わせるために、前夜の20時26分の新大阪発の新幹線に乗った。品川から京浜急行に乗り換えて羽田空港国際ターミナル駅に着いたのは夜中の23時20分。改札を出ると、浪花君が待っていてくれた。「いやあ、ごくろうさん」と言いながら「上の階のベンチでみんな仮眠しているよ」と空港ビル内を案内してくれた。羽田空港の国際線ターミナルに入り、チェックインカウンターからエスカレーターで上に上がると、すでに閉まっている店舗の店先や休憩所のベンチ、ソファに早朝の便を待つ人たちがたくさん寝転がっていた。ここで4人組の一人、高橋キクエさんと合流。お互いを紹介し合った。これで4人がそろい踏みだ。

適当なベンチを見つけて仮眠に入る。時間は深夜12時を回った。幸いにして僕はどこでも寝ることができるタイプなので、いつもどおり、すぐに眠りに落ちた。

▼台湾の地を踏む

日付が代わって4月22日、午前4時に仮眠から起きた。飛行機は5時55分のフライトだ。格安航空便のため、出発が早い。運賃が安いから仕方がない。夜明けの東京の空はどんよりと曇っている。機内の座席はそれほど狭くない。機内では食事や飲み物サービスはない。欲しければ全て有料だ。低運賃だから仕方がないが、これもまたシンプルでいい。

9時30分に台湾桃園国際空港に着いた。約4時間だが、時差が1時間なので実際は3時間で着いたことになる。入国手続き、両替で手間取った。

空港から台南へ行くMRT桃園空港駅乗り場がわからず、ウロウロしたが、何とか高鉄桃園駅(台湾新幹線)までたどり着いた。台湾新幹線は日本が売り込んだので見覚えのある車内だった。2時間弱で高鉄台南駅。イエローキャブのタクシーでとりあえず康橋ホテルに向かった。煩雑なビル街にある康橋ホテル。フロントの女性は少し日本語ができた。こちらの浪花君は少し中国語ができる。ふたりが日本語と中国語が入り交ざった会話をする。荷物を預け

て町なかの散策に出かける。

台南の町なかを歩いていて気が付いたのは、建物の道路側がみんなアーケードになっていることだ。しかしアーケードの下は歩道は平坦ではなく、それぞれの建物によって段差がひどい。一体どうなっている？（帰国してから分ったのは、台湾ではスコールのような突然の雨が多いので、傘がなくても主要な町なかを歩けるようにアーケードになっているということだった）。

その段差のある歩道を、上下運動をしながら町なか散策を楽しむ。すぐ近くに点在している北極殿、孔子廟、鄭成功記念碑、林百貨店と回った。おもしろいのは林百貨店。戦前の日本統治下で、日本人の実業家が建てた百貨店だが、店内をリニューアルして雑貨や観光みやげの店舗になって再登場。装飾やエレベーターなどにレトロ感もあり、人気だという。最上階には飲食店もあり、屋上には当時の神社も残っていた。当時は台湾でもっともモダンな建物だったようだ。

この日の夜は孫さんという我々と同年代の女性と合流し、台南では著名な高級ホテル「シャングリラ台南」の最上階の中国レストランで食事をした。孫さんは浪花君の会社員時代の取引先で、今回のツアーも彼女の世話になった。高級台湾料理を堪能しながら、台南の夜景に眼をみはった。食事は孫さんのおごり（5人で約 6000 元… 2 万円ぐらいか）。良家の子女という雰囲気の子孫さんは日本語も堪能だった。康橋ホテルに戻ると、夜の 9 時までホテルの夜食サービスがあるというので、十分満腹のはずにもかかわらず、アイスクリーム、ショートケーキ、コーヒーにありつく。その夜は快適な部屋でぐっすり寝た。

▼台南の町を探索

4 月 23 日の朝、浪花君と一緒に 6 時に起床。ホテルの周辺を散歩。さすがにまだ人通りは少ない。近くには寺院や廟がたくさんある。地元の高齢者が店先のベンチや椅子に座っている。ホテルの周辺を一回りして戻り、朝食タイム。

この日の予定は昼過ぎに玉山登山のガイドの小綿羊さんと合流して、登山口に向かう段取りだ。午前中が自由時間になったので、昨日に続いて市内観光に出かけた。台南に来ればまずは市内随一



台南、林百貨店（筆者撮影）



台南、赤崁楼（筆者撮影）

の名所・「赤崁楼」（せきかんろう）へ。もともと赤崁楼はオランダ人によって築城された旧跡である。1653 年にオランダ人と漢人の衝突の後、築城された。その後、鄭成功が台湾を占拠すると、東都承天府と改められ、台湾全島の最高行政機関となった。現在は国定古跡に指定されている。

三層の櫓（やぐら）のような建築物がふたつ。日本でいえば城郭か。庭園もあるがこの日はあいにく改修中だった。神農街ものぞいた。神農は医療と薬業、農耕の神だ。その通り薬の店がいっぱいだ。休憩はガイドブックに紹介されていない、穴場のレトロ調のおしゃれな「花楼」でコーヒーラテ（80 元）。永楽市場は大阪の鶴橋の商店街のような何でもありの市場だ。昨日に続いて林百貨店に寄って 5 階のパララーで人気の「タピオカ黒豆茶」を飲む（60 元）。昼食はガイドブックに掲載されている「度小月」で担仔麵（たんつーめん）（60 元）。これはそれほどクセがないさっぱり味のスープ麵だった。

（続く）